

医療空間としての

**機能性**

と

心地良い

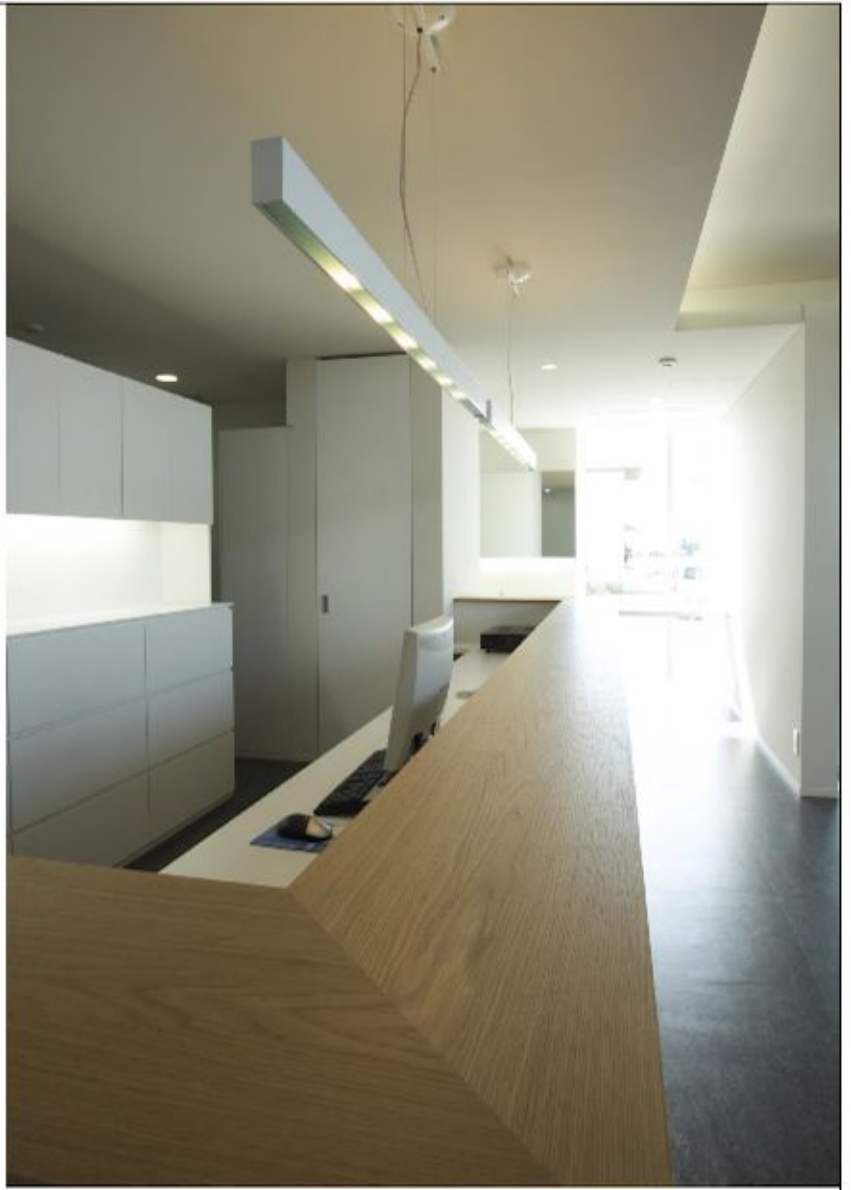
**安心感を求めて**

黒部の歯科診療所



外観





玄関 - 待合 - 洗面





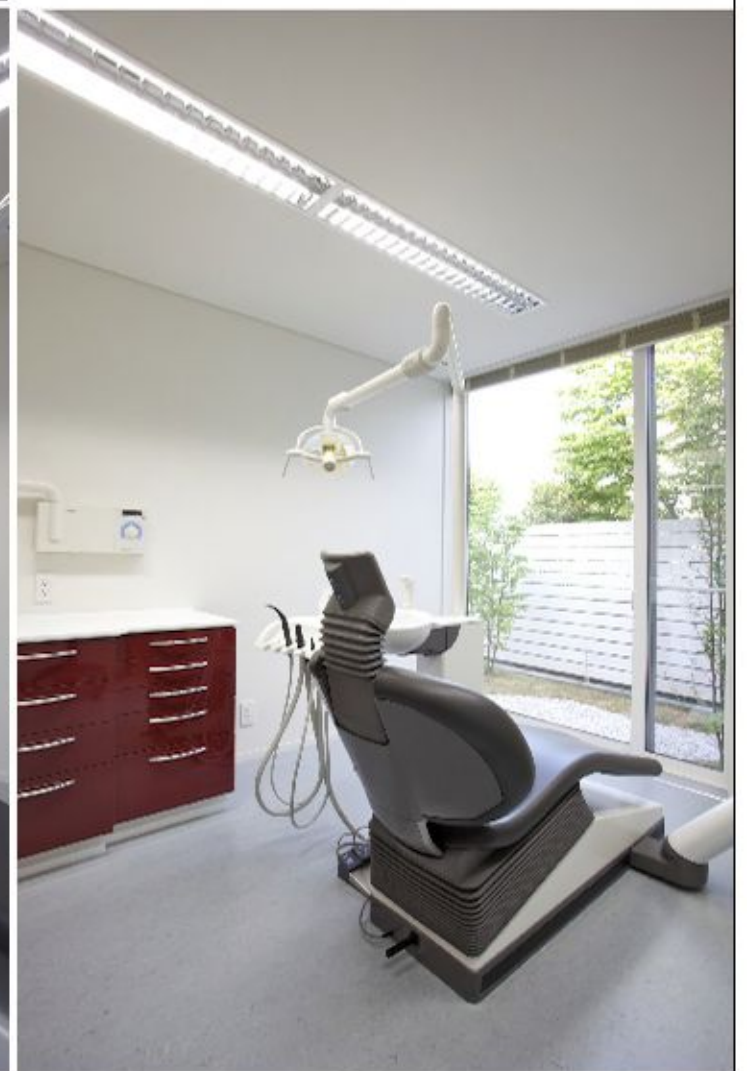
待合





消毒室 - 滅菌室

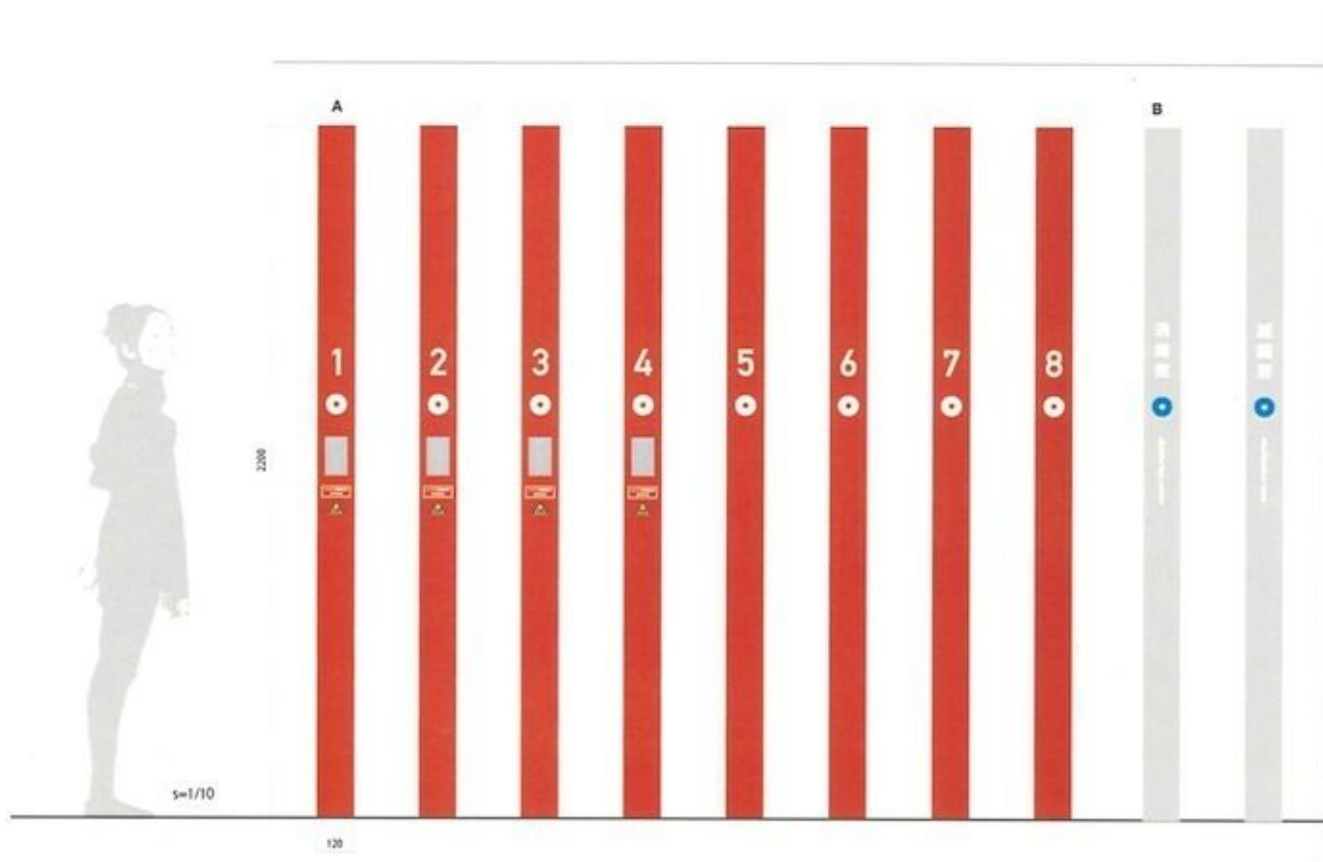






外観(夜)







# 医療空間としての 機能性 と 心地良い 安心感を求めて

医療空間では基本的な計画論として、施設は使い勝手の良い機能性の高さを持っており、また効率の良いバックアップ体制を保持していることがとても重要です。医師や看護師たちにとっては、建物も彼らが求める医療を行うための一つの「道具」のようなもので、高度で質の高い医療を追求するために医療現場に即したフィット感のある上質な機能性が建築設計に求められることになります。

一方、建物で働く人、訪れる人、どのような人にとってもその建築空間に居ることによって感じる印象が「心地良い」ことはとても大切なことです。建物に付与されるべき機能性の高さはもちろん最重要なことではありますが、建物のそれぞれの場所にそれぞれの機能性を補完する心地良い空間をもつ建物となって初めて建築という存在になるのだと思います。

今回の計画は求められた機能の実現と空間の心地よさの両立をテーマとしています。

## 医療空間として求められた機能性

### 医療動線のスムーズさと効率のよい動線計画

治療者のプライバシー確保のため全室個室となった診療室。歯科診療所では診療室と消毒滅菌室のスムーズな動線計画が一番の「かなめ」。本計画では消毒滅菌室を中央配置として効率の良い動線を実現した。



### 将来の施設の発展性への対処

当初は診療室4室での新規オープン。将来の診療室の増設に対処することを今回の計画案の中に織り込んで計画した。将来は8診療室までに対応するように構造、設備がその時を待っている。



### 温熱環境と空気質環境のコントロール

省エネルギー性を高めるため高断熱高气密化を図り、熱損失係数Q値=1.95を達成。全館熱交換型のセントラル換気として新鮮空気環境を24時間確保した。



### 医療機器更新への対処とメンテナンスの容易性

医療の現場でも新技術の導入への渴望は高度医療の実現への思いから常に強い。また、機器の耐用性の向上のためのメンテナンスも重要となっている。本計画では主だった配線配管が床下に設備されており、「床下空間」での人の移動のし易さがメンテナンスを支える、との観点からその必要寸法を確保している。

### 分かり易いサイン計画

サイン計画はとても大切です。全体の中で統一感を損なうことなく、人の意識や移動をスムーズにする役目を担います。本計画では外部の看板サインだけではなく、建物全体を通してサイン計画を行い、良いアクセントとなっています。



## 心地良い安心感を醸し出す空間構成

### 診療空間でのプライバシー確保

治療時の患者さんのプライバシーを守ることは歯科ではなかなか実現していない。落ち着いて信頼感のある空間の中での治療は誰もが望むことだという。本計画では診療室は全室個室、といっても閉鎖空間ではない。全ての治療室は個別の中庭に面しており、プライバシーのある開放感を獲得している。



### ガラス張りのアプローチと中庭を持つ開放感のある待合い空間

外観は中庭を窺うガラススクリーンはあるものの概して白い壁面に覆われている。しかし、アプローチはガラス張りです受付まで見通しができるので内部が窺い知れない、という不安はない。受付まで来ると、開放感のある中庭に面しており、治療前の気分が整えられるような明るさに包まれる。



### 清潔な衛生管理の象徴としての消毒滅菌室

待合で椅子に座ると治療室前の廊下に面して白くて明るい滅菌室をガラス越しに見ることが出来る。滅菌用の最新の機器や滅菌された器具の入った棚も見える。衛生管理を徹底していることが眼に見えて判るといふ象徴的デザインとなっている。





教育部資料館 | 平假名